



病院キャラクター「カリヨンの樹」に住むロボットたち

埼玉県立小児医療センターだより

新副院長兼看護部長あいさつ

副院長兼看護部長 **株崎 まさこ**



令和 8 年 4 月より副院長兼看護部長を拝命いたしました株崎雅子と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。
私は東京都立病院に勤務しておりましたが、平成 5 年に子どもたちの成長を見守りたいとの思いから小児医療センターを志望し、埼玉にまいりました。以後、30 年近く NICU/GCU、外科病棟などで勤務してまいりました。令和 3 年に他の県立病院に異動となりましたが、このたび 5 年ぶりに小児医療センターに戻り、再び子どもたちと関われることに大きな喜びを感じております。

当センター看護部は、「埼玉県立小児医療センター看護部は、子どもたちの未来のため、子どもたちの最善を目指した看護を提供します」と理念に掲げております。「子どもたちの最善」とは何なのか——これは私が常に問い続けているテーマです。その子どもがその子どもらしくいられるように、多面的に子どもとご家族を支え、ともに歩むことが重要であると考えております。そのためには、看護師一人ひとりが、確かな知識と技術をもって子どもたちに向き合うことが不可欠です。

また、当センターでは令和 6 年に、小児専門病院としては初めて特定行為研修指定研修機関の指定を受けました。令和 8 年 4 月から第 4 期生が研修を受講しており、これまでで 11 名の特定看護師が誕生しています。特定看護師は、医師の負担軽減に寄与するだけでなく、看護師が自ら考え判断し責任をもって医療に関わることを可能にします。その活動は、学び続ける文化の醸成やキャリア形成の幅の拡大にもつながっています。今後も人材育成を推進し、看護の質向上に努めてまいります。

埼玉県の合計特殊出生率は令和 6 年度に 1.09 と過去最低を更新し、少子化は進行しています。一方で、全国の医療的ケア児は 2 万人を超えていると推計され、特に低年齢層を中心に、増加傾向が続いています。このような状況の中で、5 年後、10 年後を見据え、小児専門病院の役割を改めて考えていく必要があります。とりわけ、医療的ケア児を地域でどのように支えていくかは重要な課題であり、地域医療機関の皆さまとの連携強化が鍵であると考えております。

令和 7 年度より「埼玉県小児看護連携会議」を開催し、多くの看護管理者の皆さまと有意義な意見交換を行うことができました。今後も継続的に開催し、「顔の見える関係」を大切にしながら連携の深化を図ってまいります。

私たちはこれからも、子どもたちとご家族に、安心・安全な医療を届けるとともに、「子どもたちの最善」を実現できるよう努めてまいります。今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

埼玉県立小児医療センターだより 第 35 号 ご案内

- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| ○ 診療部門紹介 腎臓科…………… 2 | ○ コ・メディカル部門紹介 放射線技術部…………… 5 |
| ○ 診療部門紹介 脳神経外科…………… 3 | ○ 令和 8 年度 セミナー・講演会等のご案内 …… 6 |
| ○ 看護部門紹介 11B 病棟 …… 4 | ○ 医療機関の皆様へ 受診のご案内…………… 6 |



診療部門紹介 腎臓科



(腎臓外来、夜尿・尿失禁外来、腎泌尿器疾患の入院)

ふじなが しゅういちろう
科長 藤永 周一郎

腎臓科では、検尿異常（血尿・タンパク尿）、先天性腎尿路異常（水腎症・嚢胞腎）、尿路感染症（腎盂腎炎・膀胱炎）、急性腎炎、慢性腎炎、ネフローゼ症候群、全身性エリテマトーデスやIgA血管炎に伴う腎合併症、腎代替療法（腹膜透析）、ならびに夜尿症および昼間尿失禁の診療を担当しております。当センターは日本腎臓学会認定教育施設であり、複数の腎臓専門医が患者様の診療および研修医の教育に従事しております。科長の藤永は、これまでに学会ガイドライン（小児特発性ネフローゼ症候群診療ガイドライン2013、小児検尿マニュアル、小児IgA腎症診療ガイドライン2020、夜尿症診療ガイドライン2016・2021）の作成委員を務め、現在は日本小児腎臓病学会および日本夜尿症・尿失禁学会の理事、小児PD・HD研究会の世話人を務めております。また、医長の櫻谷も、IgA血管炎診療ガイドライン2023および小児期発症全身性エリテマトーデス診療ガイドライン2026の作成に携わっております。

○ネフローゼ症候群

当科が最も専門性を有する疾患の一つであり、迅速な診断と適切な治療（ステロイド薬、免疫抑制薬、生物学的製剤）に加え、成人期以降も含めた長期的な外来フォローが可能です。近年では、リツキシマブを積極的に導入することで、長期にわたる無治療寛解の達成も可能となっております。また、当センターには院内学級を併設しており、ベッドサイドでの教諭による支援により、長期入院に伴う学業の遅れを最小限に抑えることができます。さらに、ネフローゼ症候群の再発時には、土日祝日も含め腎臓科医師が救急外来で対応しており、きめ細やかな診療体制の維持に努めております。

○急性腎炎、紫斑病性腎炎、ループス腎炎、尿管間質性腎炎

急性腎炎（高血圧、肉眼的血尿、浮腫）をはじめ、IgA血管炎（紫斑、腹痛、関節痛）や全身性エリテマトーデス（蝶形紅斑、発熱など）に伴う腎合併症（紫斑病性腎炎、ループス腎炎）、さらに尿管間質性腎炎（発熱、体重減少、全身倦怠感、腎機能障害、ぶどう膜炎）に対して、診断および治療を行っております。

○検尿異常（血尿、蛋白尿）

血尿および蛋白尿が持続する場合には、IgA腎症などの慢性腎炎が疑われるため、必要に応じて腎生検を施行しております。病理医との連携により、迅速かつ精度の高い組織診断が可能です。当センターは、小児領域において全国有数の腎生検施行数（年間約70件）を有する施設です。近年では、麻酔科医および外科医との連携により、全身麻酔下での経皮的あるいは腹腔鏡下針腎生検など、より安全性の高い手技を実施しております。さらに当科では、成人領域で広く行われているIgA腎症および紫斑病性腎炎に対する扁桃摘出術併用ステロイドパルス療法を導入しており、多くの患者さんにおいて無治療での臨床的寛解（血尿および蛋白尿の消失）の達成が可能となっております。

○先天性腎尿路異常（水腎症、嚢胞腎、膀胱尿管逆流症など）、尿路感染症

胎児超音波検査や尿路感染症を契機に発見された先天性腎尿路異常について、放射線科および泌尿器科と連携し、診断・管理を行っております。放射線科医による腹部超音波検査に加え、腎シンチグラフィー（DMSA、MAG3）や膀胱尿道造影などの精密検査にも対応可能です。また、有熱性尿路感染症の急性期管理にも対応しておりますので、必要に応

じてご連絡くださいますようお願い申し上げます。

○腹膜透析

末期腎不全に対する維持透析として、腹膜透析の導入が可能です。腹膜透析カテーテルの挿入は外科医が腹腔鏡下で施行しており、安全性に配慮した体制を整えております。透析機器については、小児用および成人用の双方に対応しております。

○夜尿症、昼間尿失禁（夜尿症・尿失禁外来）

当科では、一般の腎臓外来とは別に夜尿症専門外来（木・金）を設け、5歳以降の昼間尿失禁および6歳以降の夜尿症の診療を行っております。難治例に対しても、アラーム療法と薬物療法を組み合わせた最新の治療を行うことで、多くの患者様において改善が得られております。また、下部尿路異常を合併する症例についても、泌尿器科医と連携しながら対応しております。

○患者様紹介、電話相談

急を要さない場合（無症状の検尿異常、水腎症、夜尿症、尿失禁など）には、患者さんより当院 048-601-2200 代表へ直接ご連絡いただき、腎臓科（月～金）または夜尿外来（木・金）の初診予約をお取りいただくようご案内ください。

一方、緊急性を要する場合（有熱性尿路感染症、肉眼的血尿、浮腫、腎機能障害など）や、ネフローゼ症候群、慢性腎炎（SLE、紫斑病性腎炎、IgA腎症など）の管理に関するご相談につきましては、腎臓科医師へ直接ご連絡くださいますようお願い申し上げます。なお、平日は腎臓科・科長の藤永宛に、土日祝日は腎臓科オンコール医師宛に、「患者様のご紹介・ご相談」の旨をお伝えください。何卒よろしくお願い申し上げます。

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
総入院数（人）	258	273	248	221	237	249	273	284	351
特発性ネフローゼ症候群	84	97	74	71	75	61	67	92	102
IgA腎症	15	11	15	14	18	27	35	27	33
紫斑病性腎炎	9	13	14	15	17	23	9	25	37
ループス腎炎	15	12	12	7	10	32	18	23	30
急性糸球体腎炎	4	7	11	6	1	2	9	23	4
腎尿路異常検査入院	20	26	23	24	22	18	36	36	55
尿路感染症	8	5	9	6	5	7	12	7	2
腹膜透析関連	14	14	3	4	15	14	17	13	20
その他	89	88	81	74	73	65	70	38	68

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
腎生検件数	69	69	64	55	81	68	69	57	85
特発性ネフローゼ症候群	24	28	19	16	24	13	25	18	28
IgA腎症	11	8	9	7	10	12	10	11	14
紫斑病性腎炎	6	10	10	13	9	10	3	12	18
ループス腎炎	8	6	4	3	7	8	7	4	11
急性糸球体腎炎	0	0	6	0	0	1	3	2	4
C3腎症	2	4	3	6	4	1	3	2	1
尿管間質性腎炎	3	3	1	2	2	3	4	3	2
無症候性蛋白尿	11	2	10	3	15	13	3	3	4
膜性腎症	2	3	0	4	1	3	4	0	0
その他	2	5	2	1	9	4	7	2	3

スタッフ

藤永周一郎、櫻谷浩志、小野貴広、齋藤彩、関根麻衣、平岡由衣



診療部門紹介

脳神経外科



科長 ^{くりはら}栗原 ^{じゅん}淳

脳神経外科では、水頭症や二分脊椎、頭蓋骨縫合早期癒合症などの中枢神経系先天性疾患のほか、脳脊髄腫瘍や脳血管障害など小児中枢神経系疾患の外科的治療を行っています。

当科では、開院以来、先端医療の知見をもとに、水頭症に対する神経内視鏡手術や頭蓋骨縫合早期癒合症に対する頭蓋骨延長術など低侵襲手術を積極的に導入しており、新病院移転後も最先端の磁場式追跡システムを搭載したニューロナビゲーションシステムを導入し、小児期の特殊な形態解剖や機能解剖を術前画像検査から詳細に検討し手術計画を行うことで安全で低侵襲な手術を行うよう心がけています。

水頭症に対しては年齢や原因、病態に応じた適切な手術術式、シャントシステムの選択、積極的な神経内視鏡手術の導入によりシャント手術の再手術率は開院当時の約80%から10%に減少しています。頭蓋縫合早期癒合症に対する手術も病態に応じて適切な手術術式を選択することで、計画外の再手術率は従来の約50%から5%に改善しています。新病院移転時に導入したニューロナビゲーションシステムは脳腫瘍のみならず、水頭症

や頭蓋骨縫合早期癒合症、先天性脳血管障害など形態異常が強い小児の先天性疾患に対する手術計画、術中支援に有用であり、計画外の再手術数が減少しており診療の質向上に寄与しています。

また当科では2008年から脳性麻痺による下肢痙縮に対して選択的脊髄後根神経切断術を開始、2020年からは重症の痙縮患者に対するITB（バクロフェン持続髄注）療法を開始しました。これにより整形外科で行っている筋解離手術、ボトックス注射とともに小児痙縮患者に対する多角的な診療が一施設で行える体制が整いました。小児痙縮治療に対する治療選択は整形外科、理学療法士とともに痙縮外来で適応を評価しています。

さらに2024年度からは小児てんかんセンターを開設し、神経科と協力し「てんかんの外科手術」を開始しました。

当科では、今後も高度な診療を維持し小児神経外科診療のさらなる発展を目指していきたくてお思います。引き続き皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

図1：埼玉県立小児医療センター脳神経外科における手術術式内訳

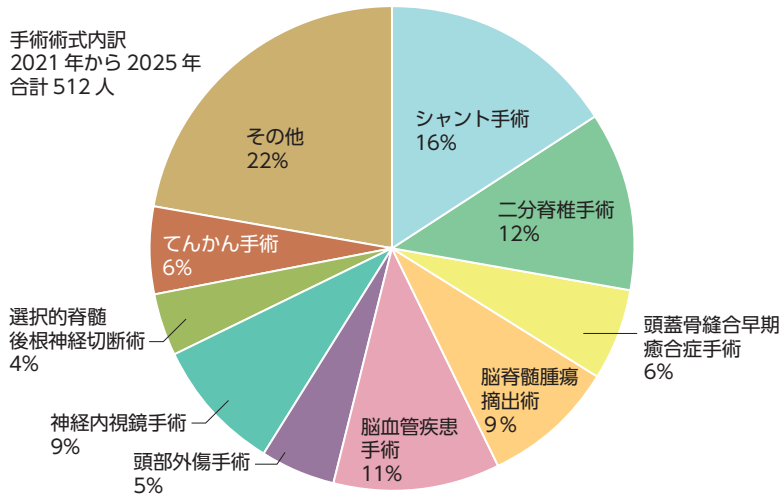
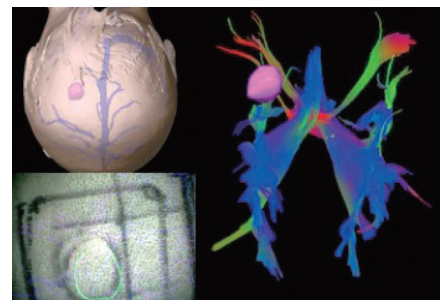


図2：ニューロナビゲーション
腫瘍と脳血管、神経束の描出、
術中ナビゲーション



特殊外来の案内

痙縮治療外来：第1金曜日 11時～12時

赤ちゃんの頭の形外来：第1金曜日 13時～14時



看護部門紹介

11B病棟



看護師長 **まつひろ 松廣** **かおり 香織**

11B病棟は、小児がん拠点病院の病棟として、学童期の患者さんに加え、AYA 世代の患者さんも多く入院し、入院期間が長期になる病棟です。治療と日常生活を両立できる環境づくりを大切にしています。患者さんの多くは、治療を受けながら、院内にあるけやき特別支援学校へ登校したり、ベッドサイドで学習に取り組むことで、学びを途切れさせない支援が重要だと考えています。

病棟では、自己決定を尊重した説明やプライバシーへの配慮に加え、学習支援や学校との連携を通して、年齢に応じた成長を支えています。また、同世代の交流や心理士・医療ソーシャルワーカー（MSW）による相談支援など、心の負担を軽減する取り組みも行っています。多職種が連携し、患者さんが自分らしく治療に向き合えるよう支援を続けています。



病棟入口



季節行事なども
行うプレイルーム



大部屋には教科書を
置ける本棚



音楽を楽しむ、漫画を読
む、消灯後1人で過ごす
こともあります

AYA 世代への支援

AYA 世代（15～39歳）の患者さんが多く入院する11B病棟では、治療と同時に進学・就職・将来設計など、人生の大切な時期を支えるケアが求められます。AYA 世代の患者さんをサポートするため、当センターでは、【AYA サポートチーム】が活動しています。チームメンバーは、血液・腫瘍科医師、病棟看護師、薬剤師、理学療法士、公認心理師、医療ソーシャルワーカー、けやき特別支援学校教諭です。



さらに、高校生支援にも力を入れています。【高校生支援】とは在籍校に籍を置きながら、ベッドサイドで学習支援を受け、在籍校の単位を取得できる仕組みのことです。

多くの高校生が治療と学業を両立しています。

ピアサポート活動

第1回 ピアグループ

ほっとピア

ピアグループ「ほっとピア」の目的……
同じ経験を持つ患者さん同士や同年代の人たちと交流して、情報共有をしたり、気持ちを共有して、良い人生生活の中で「希望」や「目標」になる活動になれば、という思いをこめていきます。

日時 8月28日(木)16:00～(45分程度)

内容 かき氷を作ろう＆けやきツアー

予定 かき氷作り・試食、自己紹介・けやき見学ツアー

対象者 高校生以上で当日の体調が良い方

費用がある人は……10A病棟・11B病棟・心療（夜・火曜）まで！
※おやつはボランティアで提供します。

第2回 ピアグループ

ほっとピア

日時 2026年2月26日(木)
15:15～16:45

内容 からだをうごかそう
&
おやつ付き座談会

予定 ① おやつ付き座談会
② けやき体育館で体を動かす

対象者 高校生以上で当日の体調が良い方

ピアグループ「ほっとピア」の目的……
同じ経験を持つ患者さん同士や同年代の人たちと交流して、情報共有をしたり、気持ちを共有して、良い人生生活の中で「希望」や「目標」になる活動になれば、という思いをこめていきます。

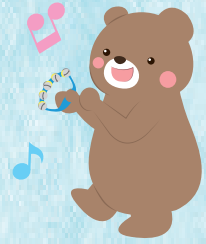
※ 当日の参加費が一人の場合はピアグループは実施せず、日常生活の息抜きになるような別のプログラムを検討します。

費用がある人は……10A病棟・11B病棟・心療（夜・火曜）まで！
企画・運営: AYAサポートチーム

令和7年度は、同世代同士の交流を目的に【ほっとピア】というピアサポート活動を2回開催しました。患者さんからも、「楽しかった」「病棟に知り合いが出来た」という気持ちも聞けており、令和8年度も継続し、患者さんの孤立を防ぎ、心の負担を軽減する取り組みを行っていきます。



コ・メディカル部門紹介 放射線技術部



部長 やまぐち あきら
山口 明



モッキーがお出迎え

放射線技術部には28名の診療放射線技師が在籍し、放射線検査業務および放射線治療業務を行っています。各検査は複数人での対応を基本とし、年齢に応じた声掛け等の接遇を重視してお子さんおよび保護者の方々が安心して気持ちよく検査を受けていただけるように心掛けています。また、撮影条件の見直しなどにより、被ばく線量の低減に努め、適切な線量管理を行うことで常に被ばく線量の最適化を行っています。

安心な検査を行うための工夫

検査室内にはお子さんの緊張や不安を和らげるための様々な工夫をしています。撮影室には壁にかわいらしいペイントを施し、アニメ鑑賞用モニターの設置、技師手作りによる撮影補助具が用意されています。MRI検査は検査時間も長く、大きな音ができるなどストレスが大きい検査になりますが、少しでもストレスが軽減できるよう、患者さんが好みの音楽を聴きながら検査できる環境を整備しています。超音波検査室や核医学検査室、放射線治療室ではベッドに横になったままアニメを見ることができるようして不安の解消に努めています。また、チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）によるプレパレーションを行うことで、楽しく検査ができたり年少のお子さんでも無鎮静で検査できるよう取り組んでいます。



撮影室内のペイント



待合廊下の魚たち



撮影台でアニメ鑑賞



寝ながらアニメ鑑賞



装飾された装置



CLSによる固定具の装飾

放射線技術部では放射線科医師と連携し、24時間安全な検査ができる体制を整えています。また、日々進歩する放射線技術を実践するために、学会や研修会への参加、専門資格の取得など自己研鑽にも積極的に取り組んでいます。今後もチーム医療の一端を担い小児医療に貢献し、子どもたちの笑顔が見られる放射線検査を目指していきます。

令和8年度 セミナー・講演会等のご案内

<医療関係者向け>

令和8年(2026年)

7月11日(土) 小児眼科レクチャー

9月10日(木) 第164回小児疾患集談会(特別講演)
※日本専門医機構認定 共通講習申請予定

11月26日(木) 第165回小児疾患集談会

令和9年(2027年)

1月28日(木) 第12回地域連携懇談会

3月11日(木) 第166回小児疾患集談会(特別講演)

<一般の方向け>

令和8年(2026年)

10月頃 小児がん患者家族セミナー

11月3日(祝日・火)

2026年度県民のための医療セミナー

「第1回未来の医療者を目指す中高生への応援セミナー」

11月28日(土) 第7回移行期医療支援セミナー

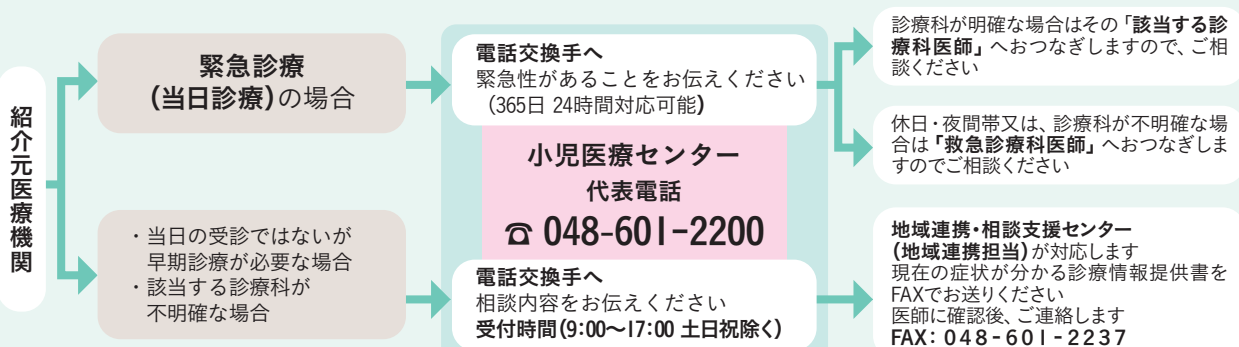
※開催日程等の詳細は、当センターのホームページで順次お知らせします

医療機関の皆様へ 受診のご案内

①患者さん(ご家族)からの予約



②医療機関の先生からの予約・お問い合わせ



病院へのアクセス



■公共交通機関をご利用の方

- ・JR 京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約5分
 - ・JR 埼京線「北与野駅」から徒歩約6分
- ※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

■お車をご利用の方

- ・駐車場は有料になります。
 - ・機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。
- ※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。無理のない範囲で公共交通機関のご利用をお願いいたします。
- (センター敷地内は全面禁煙となっておりますので、ご協力をお願いいたします)



埼玉県マスコット「コバトン」&「さいたまっち」



埼玉県立小児医療センター

〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2
Tel ☎048-601-2200(代表) Fax ☎048-601-2201
E-mail ▷ scmc@saitama-pho.jp
U R L ▷ <https://www.saitama-pho.jp/scm-c/index.html>

埼玉県立小児医療センターだより第35号
令和8年(2026年)6月発行
編集・発行 埼玉県立小児医療センター

総フォロワー数
8,000人以上!

埼玉県立小児医療センター公式 SNS ぜひ登録ください!

YouTube Instagram X Facebook

